

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関する
第5回(平成24年度)現地調査結果について

平成24年 8月29日

福島県原子力安全対策課

福島第一原子力発電所において、4号機使用済燃料プールから取り出した未照射燃料(新燃料)の健全性確認作業の状況を確認するため、県と大熊町、楡葉町^{*}、富岡町^{*}は、事故後11回目(平成24年度では5回目)となる現地調査を実施しました。その結果は下記のとおりです。(※オブザーバーとして参加)

記

1 確認状況

- (1) 日時 平成24年8月28日(火) 午前10時30分～午後4時30分
- (2) 場所 福島第一原子力発電所 共用プール建屋3階
- (3) 確認者 福島県 安江原子力センター所長 他1名
大熊町 植田企画調整課課長補佐 他1名
楡葉町 鈴木環境防災課課長補佐 他1名
富岡町 佐藤生活環境課原子力安全対策係長

2 確認結果

- 共用プール建屋3階において、4号機使用済燃料プールから取り出した未照射燃料(*1)2本のうち、1本目の外観確認調査に立会い、その状況を確認した。
 - ・ 確認時、検査対象燃料は、共用プールの除染ピットでチャンネルボックスを取り外され、プール脇に設置された作業台の上に横倒しに置かれていた。
 - ・ 設置された燃料集合体の表面全体の外観、燃料集合体から1本引き抜いた燃料棒の外観、ライトを用いて燃料棒の隙間を目視により確認した。
 - ・ 表面全体の外観には大きな腐食や変形は認められなかった。一部、薄い変色が確認されたが、ウェス(布)での拭き取りにより除去出来るものであることから、もらい錆と推定された。
 - ・ 1本引き抜いた燃料棒の確認では曲がりとは確認出来なかった。
 - ・ 燃料棒の隙間には、細かい異物の付着が確認された。燃料集合体表面には付着していないことから、高圧水で洗浄した際に落としきれなかった物と推定された。

(*1) 未照射燃料：発電に使用していない新燃料。核分裂生成物がほとんど含まれないため、使用済燃料に比べ表面線量率は低い。



プール脇に横倒して置かれた燃料集合体の表面全体の外観を確認。大きな腐食や変色、異物の付着は確認されなかった。



1本引き抜いた燃料棒を目視により確認。曲がり確認されなかった。



ライトを用いて、燃料棒の隙間を確認した。集合体表面には無いような細かい異物の付着が確認された。